

令和3年度第1回第6次瀬戸市総合計画評価委員会 議事録

日 時：令和4年3月3日（木）午後1時30分から午後3時30分まで

場 所：瀬戸市役所 北庁舎4階庁議室（一部オンライン）

出席者：石川 良文（南山大学総合政策学部 教授）
澤田 景子（名古屋学院大学現代社会学部 講師）
伊藤 勉（瀬戸市自治連合会 会長（八幡台自治会 会長））
河村 誠悟（瀬戸商工会議所 会頭）
水野 和郎（瀬戸信用金庫 会長、名古屋商科大学地域活性化研究センター 特任教授）
南 慎太郎（ゲストハウスますきち オーナー）
林 ともみ（ラジオサンキュー パーソナリティー、瀬戸市障害者地域自立支援委員会 副委員長）
萱岡 愛（瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会 委員）
小坂 英雄（行政書士、せと・しごと塾 塾長）

傍聴者：1名

- 議 題：1 あいさつ
2 第6次瀬戸市総合計画の進行管理について
3 第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について
4 その他

発言者	内容
1 あいさつ	
事務局	令和3年度第1回第6次瀬戸市総合計画評価委員会を開催させていただきます。 委員の皆さま、本日は年度末の大変お忙しい中、評価委員会にご参画いただき、ありがとうございます。 開催にあたりまして、瀬戸市長伊藤保徳よりご挨拶をさせていただきます。市長、よろしくをお願いいたします。
市長	日頃から本市の行政に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。 新型コロナウイルスの感染確認が続いております。まん延防止等重点措置の適用期間も2,3週間延長となります。ゼロコロナというより、ウイルスと共生する形で社会活動をしていかなければならないと感じています。 さて、昨年度は「第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたって色々ご意見をいただき、ありがとうございました。現在、戦略に基づき、様々な取組を展開しているところです。また、「第6次瀬戸市総合計画」ですが、策定当時、本市の人口は減少傾向にあり、高齢者で亡くなる方が1,300人程度、お生まれになる新生児が750人程度で、この差が自然減ということになります。当面の方策として、転入を増やして転出を減らし、社会増を目指そうと、企業誘致や子育て・教育サービスの充実に取り組んできました。社会増が顕著に確認できており、的を得た方策・戦術であったと考えています。 この総合計画と総合戦略について、これまでの総括と今後の方向性、相互の関係性などについてご確認いただき、必要な視点へのアドバイスをいただければ嬉しいです。オンラ

	<p>インでご参画いただいている委員の皆様も含め、それぞれご専門からご発言いただき、実あるものにしていきたいと考えています。</p> <p>まだまだ暖かくなりませんが、新型コロナウイルス感染症対策も含めてご自愛いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>第6次瀬戸市総合計画評価委員会について、簡単にご説明をさせていただきます。</p> <p>資料の中に委員名簿がございますが、「第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する際に開催させていただいた評価委員会にご参画いただいた皆様をお願いしております。</p> <p>続いて、資料1をご覧ください。昨年度は総合戦略の策定を目的に開催させていただきましたが、今回からは総合計画及び総合戦略の進行管理を目的に開催させていただきます。</p> <p>最後になりますが、改めて評価委員会を開催させていただくにあたり、座長の選出を行いたいと思います。当委員会の座長については、市長が指名するとされておりますので、市長から座長の指名をお願いします。</p>
市長	<p>座長の指名をさせていただきます。前回から色々ご無理を申し上げており、困った時は石川先生ということで、引き続き、石川先生に座長をお願いできればと思いますが、皆様いかがでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
市長	<p>それでは、石川座長どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>私は都合により退席させていただきますが、石川座長、委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、石川座長より一言ご挨拶をいただければと思います。座長、よろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>南山大学の石川です。よろしくお願いいたします。オンラインでご参加いただいている皆様もよろしくお願いいたします。</p> <p>昨年度は、総合計画の評価と総合戦略の策定について、皆様と議論させていただきました。令和2年12月には総合戦略がまとまり、現在は、総合戦略に基づき取組を進められているところです。</p> <p>今回、総合計画も総合戦略もPDCAサイクルのCの段階で、計画を実施し、それを評価するところです。総合計画は5年が、総合戦略は1年が経過しようとしていますが、いずれもPDCAを回すことが重要です。そして、皆様と議論し、次のアクションにつなげていくことが重要です。そのため、単に評価する観点でのご意見ではなく、これからどういうアクションを起こすべきかという観点でのご意見をいただければと思います。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響は2年に渡っており、市民生活、企業活動など、大変な思いをされていると思いますが、いつまでも後ろ向きではいけませんので、前向きに、活発にできればと思います。本日も皆様と活発な議論ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、ここからの進行は座長にお願いしたいと思います。</p>
座長	<p>早速議題に移りたいと思います。次第では、第6次瀬戸市総合計画の進行管理について、第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理についてとなっておりますが、これらは相互に関係しておりますし、内容が重複している部分もありますので、事務局からまとめて説明をいただき、その後に議論を行いたいと思いますが、事務局はその進め方でもよろしいでしょうか。</p>

事務局	その進め方でお願いいたします。
2 第6次瀬戸市総合計画の進行管理について	
3 第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について	
座長	資料の説明をお願いいたします。事前にお送りいただき、皆さん一通りお目通しいただいていると思いますので、説明は簡単をお願いして、議論の時間をしっかりと取りたいと思います。
事務局	(資料説明：資料2～資料7)
座長	はじめに、資料に関する質問等があればお願いいたします。
委員	資料6の基本目標3、数値目標にある若い世代の住みやすさですが、25～39歳までの社会増減ということで、令和元年から令和2年にかけて数値は下がっています。目標に矢印がありますが、これはどのように見たら良いでしょうか。
事務局	数値は再度確認いたしますが、目標にある矢印はこの数値を上げていくという意味です。
座長	指標名の若い世代の住みやすさですが、これは何を意味しているのでしょうか。一般的には満足度のような指標を連想しますが、ここでは社会増減で確認しています。当初は何人で、現在は何人が、一度確認をお願いします。ただ、若い世代が増えていると考えるのは妥当だと思います。
委員	本市の人口約129,000人の中には、外国人人口が4,000人程度いると思います。コロナによってどのような影響があったかは分かりませんが、単純に人口が増えた、減っただけを見てはいけないと思います。
事務局	外国人人口は4,000人程度で、社会増減の推移においても、平成30年以降は外国人人口を含む数値となっています。 また、社会増減数を世帯数でみてはどうかというご意見もいただきました。すぐには確認できませんでしたが、子育て世帯数の増減も確認できればと思います。
座長	人口及び社会増減数の推移の内訳について、もう少し検証できると良いですね。
事務局	令和3年は368人の転入超過となっていますが、水南連区と東明連区でそれぞれ150人程度の転入超過となっています。水南連区は瀬戸市役所前駅北側の宅地開発、東明連区は塩草地区の区画整理が影響していると考えています。また、豊田市からの転入超過が多くなっています。
委員	資料6の目標は、最終的な目標ということでしょうか。
事務局	総合戦略の実施期間は令和7年度までであり、令和7年度における目標ということになります。
座長	全て年間の数値となりますか。
事務局	指標によって、年間の実績値であったり、年度の最終値であったりします。目標値は、令和7年度における実績値、最終値となります。
座長	市内従業者数ですが、資料5では工業統計調査となっており、平成28年度の数値となっています。工業統計調査であれば、毎年数値を追えるので最新値が入りますが、経済センサスであれば、数年おきで少し古いデータを使わざるをえなくなります。従業者数は基本的には経済センサスで良いと思いますが、工業統計は部門別に分かれるので、例えば、製造業の従業者数を工業統計で追うなど、補完する形で整理・活用できると良いと思います。 それでは、全体を通して、皆様から率直なご意見、今後に向けたご提案などをいただきたいと思います。せっかくなので、お一人ずつご発言いただきたいと思います。

委員	<p>令和3年度における社会増減について、ご説明のあったとおり、20～24歳は社会減、30～39歳で社会増となっています。私自身、24歳の時に単身で北海道から瀬戸市に戻ってきて、20～30代の人と会うことが多いので実感も含めてお話させていただきます。</p> <p>移住については、家庭があるか、独り身かによって、大変さが変わると思います。30代は社会増となっており、家庭をもって移住している人が多いと思いますが、宅地造成やマンション建設がない限り、この層を増やしていくのは難しいと思います。瀬戸市には1LDKや2DKといったマンションがほとんどなく、戸建住宅を購入するお金のない人もいて、現実的に移住できない人も多いと思います。</p> <p>一方で、20～24歳で転出した人に対してどういった施策を打つと良いかを考えると、この層の移動・移住に対するハードルは高くないと思います。その上で、なぜ転出するかを考えると、やはり仕事があるからが一番大きな要因だと思います。ただ、現在のパンデミックの状況は、地方自治体にとって追い風だと考えています。オンラインが増え、実際の出社が週に1～2回という会社が増えている中で、高い家賃を払って会社の近くに住む必要があるかと考えている人は増えていると思います。東京圏からの移住に対する支援金があると思いますが、名古屋市や豊田市に住んでいる人に対する移住支援金があると良いと思います。その他、市内の高校・大学を卒業した人に瀬戸で一人暮らしをしてもらう、奨学金の返済義務がなくなる、そういった制度設計ができると良いと思います。</p>
委員	<p>次期総合計画に向けた視点になりますが、資料4を見てみると、指標名と使用するデータが一致していないものがあると思います。例えば、都市像③の指標⑧、障害者福祉の充実ですが、事業所の数で充実度を測っていることになります。また、事務局からも説明があったとおり、自治会加入率で地域のつながりを測れるのかとも思います。</p> <p>総合戦略の基本目標5における数値目標について、当初値、現在値も低いですが、目標値50%というのも低いと思います。もう少し高くても良いのではないのでしょうか。それと、基本目標2のKPI、市観光情報ホームページの閲覧数は、コロナ禍においても結構閲覧されていると感じました。</p> <p>教育に関して、瀬戸市は魅力あるまちになっていくと思います。私自身、コミュニティ・スクールの地域学校協働活動推進員をしています。重点項目になっていますが、小中一貫教育の推進は小中一貫校の整備と誤解している人もいて、情報発信のあり方も検討する必要があります。</p>
委員	<p>長久手市や尾張旭市は土地が高く、若い人たちが住居を求めて瀬戸市内に入ってくるというケースは多いと思います。入ってきた人からは、周りと交流する機会が少ないという話をよく聞きます。干渉されたくないということもあると思います。ただ、瀬戸市に住んでいただくことも重要ですが、いざという時に、自分の身は自分で守るために、防災に対する意識を高めることが必要だと思います。なぜ防災が重要かという議論も出来ればと思います。</p>
委員	<p>切れ目のない支援を行う子ども・若者センターの運営について、子育てと介護を同時に行うダブルケアの活動をしており、ヤングケアラーとの交流もありますが、若い人や子どもにとって、相談センターの敷居は非常に高いと思います。授業で学生に聞くと、まずはSNSで似た境遇の人を探して聞いてみるという回答が多いです。センターにつながるまでの切れ目のなさ、センターにつながった後の切れ目のなさを考える必要があります。</p> <p>センターで窓口を開けているだけでなく、SNSを活用して似た境遇の人が情報交換をしたり、気軽につながるような環境があると良いと思います。LINEのオープンチャ</p>

	<p>ット等でやり取りが行われ、その中でセンターに行くという意見が出ると、センターにつながります。センターの人が動くというより、緩やかなつながりから、センターにつながっていく流れを作れると良いと思います。</p> <p>つながった後においても、問題が複雑化してからでは遅いので、この段階でこの問題にぶつかった際はこういった対応をするというような、ライフデザインのようなイメージで考えると良いと思います。福祉分野は問題化しないと動かないイメージがありますが、教育分野と福祉分野が相互に学び合える、価値観を共有できる機会があると良いと思います。切れ目のない支援を丁寧につなげていけると良いと思います。</p> <p>若い世代、子育て世代で、共助の取組をしている人は多いと思います。ただ、既存のPTAのような組織を嫌う人も多いと思います。最初は小さいテーマでも、段々幅が広くなり、そのうち地域の防災にもつながり、自治会も重要という気付きになる、そういった共助の活動への支援があると良いと思います。</p>
委員	<p>我々の使命は稼ぐ地域をつくることです。新型コロナウイルスにより、企業活動に大きな影響が出ています。その中で、何とか事業を継続しようと頑張っていると思います。国、県、市の支援策がありますが、事業者からは、どこに相談すれば良いかわからないという声をよく聞きます。そうした方が商工会議所にもいらっやして、相談対応を通じて、会員になれる方も増えています。そう思うと、商工会議所の役割をもっと説明しておけば良かったと思います。</p> <p>商工会議所、瀬戸信用金庫、瀬戸市と、相談をしっかりと受けて、支援策につなげ、支援策を使ってもらい、なんとか乗り越えてもらいたいと思います。これを新しいビジネスチャンスと捉えて、働き場のある地域づくりのきっかけ出来ればと思います。</p>
委員	<p>瀬戸市では創業支援を行っていますが、最近では、国、県、市の支援策をどう使うかという相談対応に追われていました。特に愛知県よろず支援拠点での相談は愛知県全域となり、事業者が色々な所に相談に行き、たらい回しになり、最終的に私の所へ来るということが多かったです。継続相談が多く、創業相談は減っています。こうした現状に合わせて、指標・数値も見直していくと良いと思います。</p> <p>相談場所を作っても、相談には行きません。間に入る人が必要です。ちなみに、商工会議所は会員の相談に対して支援員が同席をされます。こういった積み重ねが必要だと思います。問題解決のための情報共有を進めていただきたいと思います。</p>
委員	<p>人口及び社会増減の推移をみると、働く場と子育て環境が揃うことで、30代の人が増えると思います。企業の子育て環境充実に取り組んできた成果という話がありましたが、戦略として厚くしていく必要があると思います。</p> <p>IT・スタートアップ企業の誘致とありますが、コロナ過でリモートワークも出来るので、企業を誘致しなくても、豊かな自然を生かしたワーケーションを推進し、そこから移住につなげることも出来ると思います。点の施策ではなくつなげていく、企業誘致から子育てができる環境づくり、移住につなげる、ストーリー性のある戦略を立てられると良いと思います。</p> <p>小中一貫校の整備で学校が空くと思いますので、空いた学校の跡地にスタートアップ企業を誘致することも考えられます。実証実験の場所として、学校跡地は適地ではないかと思っています。</p>
委員	<p>瀬戸で生まれ育ち、学び、働き、人生そのものがPDCAだと感じています。瀬戸に働く場があったからこそ、これまでやってこられました。そういった意味で、企業誘致は非</p>

	<p>常に重要だと思います。瀬戸で生まれたら、瀬戸で働き、子育てができ、PDCAを回していけると良いと思います。</p> <p>昨年5月、地方創生大臣からの表彰をいただきました。瀬戸市やその周辺には窯業に関する育成機関が5つありますが、卒業生が地方に行ってしまうということがありました。そこで、起業・創業支援、ツクリテ支援に取り組むとともに、アートギャラリーを整備し、展示ができるようにしました。こうした一連の取組が評価されたものと思います。また、重点事業に旧山繁商店の修繕を含めた利活用の検討とありますが、信金中央金庫のSCBふるさと応援団で1,000万円の寄附をさせていただきました。ジブリパークのオープン、ホテル開業もあるので、これらを活用して賑わいづくりができるかが今後の計画に重要です。</p>
座長	追加でお話したいことがあればお願いします。
委員	<p>コロナ禍において、瀬戸市では事業者支援を厚く実施されましたが、支援のなかった自治体も多かったです。そのため、瀬戸市で良かった、瀬戸市が羨ましいという意見もありました。コロナになってから瀬戸市で起業した人もいて、市役所にも感謝の声が届いていると思います。</p>
委員	<p>瀬戸旭法人会のHPを見ていて、税の週間で作文が載っていました。その中に、「税金を払うのは義務であるが、未来への植樹である」という内容があり、深く感動しました。10年計画は長いと思っていましたが、今すぐに結果が出るものでもないのだから、必要に応じて見直ししながら、何をすべきかを一人ひとりが考えていく必要があると、教えられた気持ちになりました。</p>
座長	<p>PDCAのC、チェックの作業は非常に重要であり、計画に沿って取組が進んでいるか、効果は表れているか、しっかりと確認していく必要があります。指標とデータが合っていないのではという意見もありました。これは学問上の課題もあります。ただ、できる限り効果を測れる指標を参考指標として設定する方法もあります。観光に関しては、最近であればモバイル統計データがあり、どこにどれくらいの人がいるかが分かります。さらには、どこから来ているかも分かります。こうした様々なデータを活用し、評価に生かしてもらいたいと思います。相談には乗らせてもらいます。</p> <p>最も重要なデータとして、人口動態と地価があります。地価は、様々な魅力は地価に帰着するという理論があります。人口の増減だけでなく、地価がどうなっているのか、土地の供給量も関係しますが魅力があれば需要が増え、地価も高まります。それと、人口動態も市内でも場所によって全然違います。例えば、菱野団地は50年前と比較して人口が減少していますが、戸建・分譲と県営・公社住宅に分けて見てみると、戸建・分譲はほとんど減少していません。空き家が出るとすぐ埋まる状況で、空き家率は非常に低く、全国平均からしてもすごく低い数値です。一方で、県営住宅はこの10年くらいで2,400人くらい減少しており、空き家率も数十%となります。つまり、菱野団地の人口減少の大きな要因は、県営住宅の老朽化と空き部屋の増加です。これを解決しないと人口減少は止まりません。</p> <p>20代前半で社会減というのはどこも同じですが、戻ってくるかが重要です。瀬戸市に良い印象を持っていれば戻ってきます。若い人をターゲットとした、定住してもらうための施策も検討いただきたいと思います。</p> <p>長久手市や日進市など、人口が増加しているところもありますが、瀬戸市は、名古屋市や豊田市の人口を受け止められる地理的なメリットもあります。豊田市には住宅需要があるので、そこを捉えられると良いと思います。</p>

	<p>人のつながりも重要ですが、いきなり自治会ではなく、もう少し近いところからつながり、つながりの重要性を感じて、自治会に入るようなステップが必要です。まずは共通事項がある人同士でつながれる仕組みづくりと、ステップを整理することが重要です。</p> <p>2022年になります、昔と比べてもっと未来社会になって良いと思います。もう少し新しいチャレンジが必要ではないでしょうか。コロナで働き方も大きく変わりました。テレワークやワーケーションができる環境も必要です。瀬戸市には国定公園エリアがあり、豊かな自然環境があるので使ってもらえるようにならないといけません。国定公園は自然公園法の理念により、自然の魅力を学ぶために使ってもらう必要があります。</p> <p>学生に卒業後どこに住みたいかと聞くと東京や名古屋など都心という回答が多いですが、家庭を持ったらどこに住みたいかと聞くと郊外という回答が圧倒的に多いです。郊外でまず考えるのが働き先や実家の近くなので、この地域の人に戻ってこれると良いと思います。そのためには、シビックプライドの醸成や、瀬戸の良いところのPRをしっかりとすべきです。中心部では色々な面白いことがあるのに、ほとんどの市民はそれを知りません。市の良い動きを見せてあげた方が良いと思います。それと、広報の表紙に人口減を載せる必要はないと思います。もう少しポジティブな宣伝、プロモーションをすべきだと思います。</p> <p>スマートシティが進む中で、何もやらないのは良くないと思います。生活を豊かにする装置があるので、如何に活用するかが重要です。</p>
委員	<p>共助の活動をする中で、コロナ禍で発展的な活動をしている団体はオンラインを上手く活用しています。そうすると、エリア型の補助金や活動拠点等とは相性が悪くなり、広域的な支援をしてくれる行政を探ることになります。柔軟で、使いやすいサポートが必要だと思います。</p>
座長	<p>本日の意見交換はここまでにしたいと思います。委員の皆様から出た意見は、こういった形で今後の政策推進に反映されていくのでしょうか。</p>
事務局	<p>本日のご議論の内容は、まずは議事録としてとりまとめ、委員の皆様にご確認をいただきたいと思います。その上で、庁内の会議で各部長に報告し、各課へとお伝えして、今後の政策推進に反映していきたいと考えています。</p>
座長	<p>本日出ました様々な意見は、ぜひ参考にしてもらいたいと思います。</p>
事務局	<p>データを確認しましたので、少し補足をさせていただきます。総人口は減っていますが、外国人人口は増えています。年齢等の分析は、今後していきたいと思います。また、若い人の住みやすさですが、数値は合っておりますが、単年度の数値であり、段々と増やしていくという目標なので、累計では増えているなど、補足の説明をしていきたいと思います。従業員数は経済センサスの数値を使っています。出荷額は工業統計ですが、補足する形で工夫したいと思います。</p>
4 その他	
座長	<p>最後に、その他としまして来年度のスケジュールのご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料説明：資料8)</p>
事務局	<p>これから毎年評価委員会を開催し、PDCAを回していきたいと考えています。人口推移は重要なので、データを提示してご議論をいただきたいと思います。先程石川座長から議論の反映についてご質問がありましたが、来年度策定する中期事業計画（令和5年度実施計画）の策定方針にも反映し、今後取り組むべき重点項目の検討に反映していきたいと考えています。</p>

座長	委員の皆様、他にご意見等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。 それでは、ここで進行を事務局にお返しいたします。
事務局	本日は貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。また、石川座長には円滑に会議を進行いただき、ありがとうございました。 それでは、これを持ちまして、令和3年度第1回第6次瀬戸市総合計画評価委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

以上